

NEWSLETTER FROM
TICON GROUP

FORWARD

January-March 2017 | ISSUE 13

AEC時代における

タイと物流ハブの今後

ネット通販事業における

物流マネジメント

TPARK コンケン視察ツアー

TICONグループ新年会
「WE ARE FAMILY」
を開催

2020年の財務報告基準変更
に伴う影響

インダストリー4.0時代のロジスティクス4.0
とタイ事業者の変革

NO. 1 PROVIDER OF FIRST-CLASS WAREHOUSE IN ASEAN



- International Quality
- Ready to Use
- Strategic Locations

Contact Us: **02-679-6565**



Message from the CEO



2017年の新時代へようこそ

TICONグループは新年に入って、将来の成長と足場固めに向けて大きな変革を行いました。ひとつは、オーストラリアでの倉庫開発を始め、世界各国で不動産開発を手がける業界最大手のFraser's Centrepont Limited (FCL) を家族の一員に迎え入れたことです。FCLのビジネスモデルはTICONグループのそれと合致しています。このため、同社の世界における不動産開発のノウハウがTICONに大きく寄与し、TICONの工場・倉庫開発運営の発展および競合他社との差別化を実現してくれると信じています。年内にはこの変革が形となり、皆様もご覧いただけることでしょう。

もうひとつは、経営体制を変革しました。私、ウイラパンが最高経営責任者 (CEO) に就任するとともに、FCLからPresidentのソーボン・ラーチャラクサー氏とExecutive General Manager, Developmentのティム・エドワーズ氏の2名を経営陣に迎え入れました。私は当社取締役および新経営陣の経験と能力が、タイ国内外において工業用不動産開発のリーダーになるというTICONグループの目標達成に向けた重要な要因になると確信しています。

Mr. Virapan Pulges
CEO
TICON Industrial Connection Public Company Limited

ISSUE 13 January-March 2017

CONTENTS



WAREHOUSE SPOTLIGHT

TPARKコンケン
視察ツアー 8



INVESTOR'S FOCUS

2020年の財務報告
基準変更に伴う影響
11

COFFEE TIME WITH GURUS 4

AEC時代におけるタイと物流ハブの今後

DO YOU KNOW? 6

インダストリー4.0時代のロジスティクス4.0
とタイ事業者の変革

EVENTS NEWS 12

NEW TENANTS 13

OPERATION CAFE 14

ネット通販事業における物流マネジメント

SPECIAL SCOOP 16

TICONグループ新年会「WE ARE FAMILY」
を開催

PROPERTY HIGHLIGHT 18

TAKE A BREAK 19

ワニダー・ロットウィセート

FORWARD

Consultants

MR. VIRAPAN PULGES
MR. SOPON RACHARAKSA
MR. TAN JITAPUNKUL

Executive Editor (English)

MS. HATAIKAN DUTTADINTORN
MR. RUAIRIDH WATTERS
MR. THANATDECH SIRIVORANAN

Executive Editor (Japanese)

MR. YUTAKA OMOTEHARA

Executive Editor /

Art & Design Director

MS. HATAIKAN DUTTADINTORN
MR. THANATDECH SIRIVORANAN

Editorial Staff

MR. THANATDECH SIRIVORANAN

TICON TPARK

Published on Behalf of:

TICON GROUP

175 Sathorn City Tower, 13th Floor,
Suite 1308, South Sathorn Road,
Sathorn, Bangkok
10120 Thailand

Tel: +66 (0) 2679 6565

Fax: +66 (0) 2679 6569

Email: logistics@ticon.co.th

www.ticon.co.th

Follow us on

Twitter@TPARK_Live



An article by Dr. Tanit Sorat

President, V-Serve Group
Former Vice Chairman, Federation of Thai Industries

AEC時代における タイと物流ハブ の今後



AEC時代においてタイがASEANの物流ハブとなるには、タイ自身の競争力や潜在力といったいくつかの要素を検討する必要があります。海運ハブとなるには、世界レベルの港湾となっているシンガポールやマレーシア(タンジョン・ペレパス)が競合として存在し、タイランド湾内に位置するレムチャバン港はその能力に限界があります。一方、空運ハブについてもシンガポールのチャンギ空港やマレーシアのクアラルンプール国際空港、ベトナムのノイバイ空港(ハノイ)やタンソンニャット空港(ホーチミン)が乗客・貨物の両輸送において重要な役割を担っており、競争は激化しています。



GMS Economic Corridors

タイがASEANにおいて最も優位にあるのは、域内各国を結ぶ陸運ハブです。なぜなら、タイはミャンマー、タイ、ベトナム、ラオス、カンボジア、マレーシア、シンガポールで構成される大陸ASEANの中心に位置し、メコン河にはタイとラオスをつなぐ橋が4カ所かかっており、中国南部も含めた域内を結ぶアジア・ハイウェイとしてR3E (チェンコン＝ルアンナムター＝中国南部西双版纳・昆明)、ルート12(ナコンパナム＝カムムアン＝ピン)、ルート9(ムクダハン＝サ

“the incomparable strength of Thailand makes the country the strongest contender to become the mainland logistics hub. Our geographic location puts us in the heart of the mainland ASEAN nations consisting of Thailand, Lao PDR, Myanmar, Vietnam, Cambodia, Malaysia, and Singapore.”



ワンナケート＝ラオバン)があり、東西経済回廊と南部経済回廊がタイを通過してピサヌロークで交差しています。このため、域内の陸運のほとんどがタイ国内を通過することになります。しかし、タイが域内の陸運ハブとなるには、国と地方の両レベルにおいて経済効果を生まなければなりません。そのためには地方の事業者が競争力のあ

る国際物流サービスを提供する必要があります。タイの物流ハブ化に向けて必要となる課題として、ビジネス、投資、サービス面で地方を国レベルのサプライチェーンとつなげるとともに、人材開発とサービス向上、国内外の輸送に対応したルール整備等が挙げられます。同時に、ビジネス上の利益を獲得するために技術を導入しなければなりません。さらに避けて通ることができないのが政治的混乱の解決です。また、タイの事業者のほとんどが中小のため、自らがサービスをグローバルレベルに引き上げることができず、域内レベルにおける競争においても能力が不足し、信用もなく、国内外におけるネットワークもありません。これらについても今後解決していかなければならない課題です。■



Disclaimer: This article was written by third parties. Such article is owned by their authors for publication on the newsletter. TICON group does not warrant, endorse, guarantee or assume responsibility for any third party articles including their accuracy, or the intellectual property rights in or relating to such article. For more information, please contact directly to the author of this article.



インダストリー

4.0



ロジスティクス4.0とは、物流マネジメントにデジタル技術を活用することです。需要と供給をマネジメントする業務である物流コンセプトを見たとき、ロジスティクス4.0時代における変革は、サプライチェーンの短縮に貢献し、製造業者は消費者のニーズにより対応できるようになり、サプライチェーンの効率化が進むこととなります。しかし、サプライチェーンの短縮はサプライチェーン内に存在する事業や人の退場を意味するのではなく、大量生産からカスタマイズ生産へと変わる製造業界や需要と供給のマネジメント力により競争を余儀なくされる物流業界においては、変革できる力と付加価値を高める能力次第で生き残ることができるかどうか分かります。一方、小売業界は商品価値を顧客に提供するためにマーケティングにより顧客ニーズに対応する必要があります。



時代のロジスティクス4.0 とタイ事業者の変革



“whether they can adapt to adopt the concept and development of the industry 4.0, logistics 4.0, and marketing 4.0 to their core operations in order to optimize their business value and proposition and to outperform industry peers.”

私たちが関心を持つべき点は、タイの事業者が4.0時代に突入する準備ができてい
るかどうかです。なぜなら、タイの事業者
がインダストリー4.0、ロジスティクス4.0
、マーケティング4.0のコンセプトのもとに
おいて変革することができたなら、事業の
利益や付加価値を高めることができると
ともに、グローバル市場でライバル企業と
競争することができるようになります。しか
し、タイの事業者、特に中小企業(SMEs)
は、多くの面で準備が整っているとは言
えません。タイの事業者が世界的な競争に
向けて変革するには、次にあるように事業
運営プロセスをデジタル・プロセス化する
必要があります。

事業に対する考え方の変革

多くの事業者は変革にあたって事業価
値よりも事業コストを重視しがちですが、
システムの成長は事業の成長であるとい
う考え方に変える必要があります。つまり、新
しいデジタル技術への投資が効率性と競争
力を向上させ、長期的な事業の拡大と生き
残りにつながるのです。

デジタル技術の賢い活用

タイは新しい技術が生まれる国ではあ
りませんが、事業上の利益を最大化する機
会と決断を増やすため、既存技術の改良と
合わせて、選択肢の拡大、決断、内部プロセ
スや事業取引に関するデータ活用を目的と
して、事業者がそれぞれの事業インフラに適
したレベルでのデジタル技術の活用を推進
する必要があります。これはタイの事業者、
特にSMEsが長期的に競争で優位に立てる
ようにするのが目的で、事業者によるデジ
タル・プロセス化の実行を後押しするため
には政府が重要な役割を担う必要があります。
まずは政府機関の業務プロセスをデジ
タル化、統合化し、重複や不透明さをなくし、利
便性を向上させることから始めます。4.0時
代はデジタル技術が生活において重要な役
割を担う時代です。このため、事業の重要成
功要因(KSF)は、単に高度で最新のデジ
タル技術を保有することではなく、すでにある
技術を賢く選択し、最大の利益を生むこと
にあります。■



TPARK コンケン視察 ツアー

今回のWAREHOUSE SPOTLIGHTでは、TICON LOGISTICS PARK CO.,LTD.(TPARK)ゼネラルマネジャーのテーン・チタパンクン氏の案内で、NHK国際放送「NHK WORLD」の取材班とともに視察したTPARKコンケンをご紹介します。



TPARKコンケンはコンケン空港から行く場合、コンケン市街からミトラパーブ通り(国道2号線)をナコンラチャシマ方面に向かって約15キロのところであり、入り口はミトラパーブ通り沿いの左手、タープラ町役場に入る交差点近くで、アクセスにとっても便利な立地です。

テーンGMは、「コンケン県はイサーン地方の中心地ですので、高い潜在力があり、投資効果も期待できます。先進的かつ高付加価値の農産物の集散地であるのに加え、代替エネルギー産業も盛んです。また、都市や

“we see the province a prime location with sound investment return in a long run, especially subsequent to the agreement of the Thai-China Northeastern rail network. Future constructions of the rail network will lead to further growth of large businesses, especially FMCG”



プロジェクト入り口

コンケン市街からミトラパーブ通り(国道2号線)をナコンラチャシマ方面に向かって約15キロの左手にあり、タープラ町役場に入る交差点近く。

Mr. Tan Jitapuntkul
General Manager,
TICON Logistics Park Company Limited or TPARK

国境地域のインフラ開発計画、投資・貿易奨励策、隣国との経済協力もありますので、イサーンへの投資は長期的に見て高い効果があると見ています。特にタイ・中国間の鉄道プロジェクトが合意に至り、建設が着工されれば、1,800万人のイサーン人口に対応するため、消費財を始めとする大規模ビジネスが拡大するでしょう。もちろん、イサーンでのレンタル倉庫事業にもよい影響を与えます」とコンケンの魅力を説明しました。



Mr. Tan Jitapunkul
General Manager,
TICON Logistics Park Company Limited or TPARK



“TPARK Khon Kaen is considered out pilot ready-built, rental warehouse project in the Northeastern Region. It covers a total of 183 rai of land, which can be developed into a total of 139,902-sqm.”



空港からわずか20分でTPARKコンケンに到着し、私たち視察チームはセールスオフィスでお茶をいただきながら、さらにテーンGMのお話をお伺いしました。「TPARKコンケンは東北地方におけるレンタル倉庫開発のモデルとなるもので、総面積183ライの土地に床面積139,902㎡の開発が可能です。このうち第1フェーズでは10,000㎡を開発し、1ユニットあたり630~840㎡の広さになりますが、顧客のニーズに応じて小規模から43,200㎡まで変更が可能です」とテーンGMは同プロジェクトの概要を紹介しました。

顧客ターゲットに関する質問に対して、テーンGMは「東北地方で成長している消費財や大規模小売チェーン、物流等の事業をターゲットにしています。現在すでに複数の顧客がこのプロジェクトに関心を示していますので、よい結果が出るものと確信しています」と力強く回答しました。その後、私たちはTPARKコンケンを後にしてコンケン市街に観光に向かいました。それでは次号でまたお会いしましょう。■

TPARKコンケンの特徴

- 商品配送に適した立地です。コンケン市から10キロのミトラパーブ通り(国道2号線)沿いにあり、ナコンラチャシマ県とも繋がっているため、イサーン19県への配送センターに適しています。さらに東西経済回廊上にあるため、インドシナ各国とつなぐゲート”ウェイ”ともなります。ASEAN経済共同体(AEC)に加盟しているタイにとって経済的に重要な立地となっています。

- TPARKの配送センターおよび倉庫は即入居可能かつ高品質で、世界基準のインフラも整備され、配送コストを効率的に管理できますので、タイに進出している大手外国企業から評価されています。

- 即入居可能なため、すぐに事業を開始できますので、土地探しや建設に費やす時間が不要です。



Mr. Samart Russameerojwong

Chief Investor Relation
TICON Industrial Connection Plc.

2020 年の財務報告 基準変更に伴 う影響

公的な説明責任を有する会計主体 (PAE, Publicly Accountable Entities) とは次の会社のことを言います。

- 銀行、金融機関、アセットマネジメント会社
- 損害保険会社、生命保険会社、再保険会社
- 上場会社
- 持分金融商品または社債を一般向けに発行する会社
- 国際法に基づいて設立された会社
- 1992年公開株式会社法に基づいて設立された公開株式会社

これらの会社は、会計士協会 (FAP) により定められたタイ国財務報告基準 (TFRS) に基づいて財務報告を提出する義務があります。現在のPAE 向けTFRS は、2015年版国際会計基準 (IFRS)、タイ国会計基準 (Thai GAAP)、米国会計基準 (US GAAP) を元に作成されたものです。

FAPのTFRS策定委員会は現在、2つの新基準を作成中で、2020年1月1日の属する会計年度またはその翌会計年度から適用される見込みです。新基準のうちの1つはリースに関する基準で、ここではその概略をご紹介します。

新基準 (IFRS第 16号) では、使用权について、リース料との交換により貸手が所有者である資産を (保有することにより) 使用する権利を一定期間にわたり借手に付与するものである、と定義付けました。



(次号に続く)

TICON、新取締役・経営陣をお披露目

タイ最大の高品質レンタル工場・倉庫供給会社であるTICON Industrial Connection Pcl.はこのほど、「TICON Town Hall Meeting」を開催し、新取締役および経営陣をお披露目しました。また、2017年の方針をTICONグループ管理職社員に開示するとともに、新取締役および経営陣の経験と能力によって、近い将来ASEAN域内最大の工業用不動産開発会社になることを説明しました。■



写真(左から):ティム・エドワーズ氏(Executive General Manager, Development)、ウィラパン・ブーンゲート氏(CEO)、ウテン・ロハチットピタック氏(取締役)、パノット・シリワタナバックディー氏(取締役)、チャーイ・ウィニットブット氏(取締役)、チャーイノイ・ブアンコスム氏(取締役会会長兼監査役会会長)、トリークワン・ブンナーク氏(取締役兼監査役)、チャーリー・ソボンパニット氏(取締役)、チャチャワン・チアラワノン氏(取締役兼監査役)、ソーボン・ラーチャラクサー氏(President)

TICONのウィラパンCEO、CIMB銀行のセミナーに登壇



タイ最大手の工業用不動産開発会社、TICON Industrial Connection Pcl.のウィラパン・ブーンゲートCEO(左から5番目)はこのほど、CIMBタイエコノミック・セミナー「Global Outlook : The Hunt for Real Returns」(CIMB Thai Bank Pcl.主催)にゲストスピーカーとして登壇し、チャンスとリスクの両面を抱えるインドネシア投資の経験と将来のベトナム投資計画について説明しました。

タイ大手金融機関から200人以上が集まった同セミナーでは、PTT Global Chemical Plc.やMitr Phol Sugar Corp Ltd.、CIMBの経営陣も参加し、投資機会に対する経験や見方、2017年のタイ経済およびASEAN経済への取り組みについて意見交換しました。■



写真(左から):タンチャノック・ムーンニター氏(Miss Thailand World 2015、Friend of UNDP)、テーン・チタバンクン氏(TICON Logistics Park Co., Ltd. GM)、ウィラパン・ブーンゲート氏(TICON Logistics Park Co., Ltd. CEO)、ジルス・ガラチョン氏(駐タイ国フランス大使)、ナタリー・ガースタイン・カロディ氏(ロレアル・タイランド社長)、マノート・バラブリーワン氏(ロレアル・タイランド、オペレーション・ディレクター)、ピチャヤー・ワタナーモントリー氏(女優、ガルニエ製品プレゼンター)

環境への配慮—

ジルス・ガラチョン駐タイ国フランス大使(左から4人目)はこのほど、ロレアル・タイランドのグリーン配送センターの開所式を主宰しました。ロレアル・グループがアジアで初めてLEED(Leadership in Energy and Environmental Design) 銀賞レベルの認証を取得した同センターはバンナ・トラートKM.39のTPARKバンナ内に建設されました。■

TICONロジャナ工業団地プラチンプリ

ロジャナ工業団地(プラチンプリ)の高品質レンタル工場は、プラチンプリ県の304号通り沿いにあり、ナコンラチャシマ、バンコク、チャチュンサオ、レムチャバン港、マブタブット港、サケオ県アランヤプラテートとつながっているため、国内各地への輸送・配送に便利な立地です。現在、床面積20,000㎡が賃貸可能で、すべてが完工すれば200,000㎡となります。同プロジェクトは自動車産業を始め様々な事業者に適しており、大手自動車企業が入居済みです。■



写真:ソムサック・チャイヤボンTICON Industrial Connection Pcl.ゼネラルマネジャー(右端)、堀江茂行TICON Logistics Park Co., Ltd.事業開発部長(日本顧客担当)(左から2人目)

NEW TENANTS



Fresh Mate (Thailand) Co., Ltd.



Fresh Mate (Thailand) Co., Ltd.は、紙おしぼりを製造し、有名商社に製品を供給している日本企業です。同社はこのほど、製造を目的にTICONのミニ工場(面積:550㎡)を賃借しました。

Toyo Electronics (Thailand) Co., Ltd.



TOYO ELECTRONICS Co.,LTD Toyo Electronics (Thailand) Co., Ltd.は、光通信モジュール部品および半導体を製造する日本企業です。同社はこのほど、事業拡張を目的にアマタナコン工業団地内のTICON工場(面積:3,750㎡)を賃借しました。



Schenker (Thai) Ltd.



DB SCHENKER Schenker (Thai) Ltd.は、タイ国内で国際輸送および物流サービスを手がける物流企業で、陸・海・空運による国際貿易、通関、サプライチェーン・マネジメントをサポートしています。同社はこのほど、物流サービスのサポートを目的にTPARKレムチャバン1内の倉庫(面積:5,310㎡)を追加賃借しました。

Zhongce Rubber (Thailand) Co., Ltd.



Zhongce Rubber (Thailand) Co., Ltd.は、ゴム製造を手がける中国企業で、2015年6月に設立され、タイ国内に製造拠点を持っています。同社はこのほど、自社製品の保管を目的にTPARKアマタシティ内の倉庫(面積:5,328㎡)を賃借しました。



EMARKETERは、B2C向けEコマースが2017年には全世界で2.3兆米ドルまで拡大すると予測し、FORRESTER RESEARCHは、同マーケットの成長はアジア太平洋地域の5カ国（中国、日本、韓国、インド、オーストラリア）が牽引し、2013年の3,980億米ドルから2018年には8,580米ドルになると分析しています。これは年平均で16%増となる数字です。

Eコマースのこの成長を持続させるには、同地域における事業競争力を向上させ、商品価値のあるブランド体験を顧客に提供していくことが重要です。魅力的なウェブサイトを作成したなら、次は物流センターでの迅速かつ正確な受注処理が課題となります。

当コラムでは、物流センターの運営者に対してネット通販事業の業務や課題等の情報を提供し、課題解決の方向性を提案します。

ネット通販事業における商品配送の課題は何か？

ネット通販事業には以下のような特徴があります。

- 数多くの小ロット受注
- 商品点数の多さ
- 返品率の高さ
- 梱包の制約
- 迅速な配送

ネット通販事業における 物流マネジメント

では、これらの特徴により物流業務にどのような課題が生じているのでしょうか。

数多くの小ロット注文

物流業務において、小ロットの受注処理は大ロットの受注よりも効率性が低くなります。これは小ロットのほうが受注処理にかかる移動距離が長くなるからです。例えば、バッチ処理やGOODS-TO-PERSONといった技術を使わない場合、10,000の受注に対して2種類の商品を準備するほうが100の受注に対して200種類の商品を準備するよりもより多くのリソースを使うことになるのです。

商品点数の多さ

商品点数の多さはネット通販事業を成功に導く重要な要素ですが、オンラインショップが同じ倉庫に多くの在庫商品を保管した場合、数多くの小ロット受注を処理するために移動距離が長くなり、物流業務にマイナスの影響を与えることになります。しかし、商品の種類ごとに別々に保管することが業務を簡単することにはなりません。数多くの注文に応じて商品を選別するのに時間を要してしまうからです。



梱包の制約

ネット通販での買い物のほとんどは小ロットです。このため、梱包は小さな布製の袋や段ボール箱を使うことになります。すべての商品を同時に直接梱包できるのであれば効率がよくなりますが、実際にはそうでないため、梱包する場所を用意する必要があります。また、いくつかのウェブサイトではプレゼント用梱包やメッセージの同梱サービスを提供するところもあります。特別感を提供するサービスではありますが、コスト増と引き換えに効率は低下します。

迅速な配送

迅速な配送とは受注から商品の配送までの時間の短さを意味します。これはネット通販事業が成功するかどうかの重要なカギとなります。このため、事業者は迅速さの基準を高く希望しがちです。しかし、商品を準備するための技術であるバッチ処理は業務効率を高めますが、注文が集まるまで待つことになるため迅速さは失われます。この技術は1日以内の配送を売りにするような競争の激しい事業には向いていないということになります。■

返品率の高さ

ネット通販での買い物の利点は顧客が返品可能だということです。商品を見たり、触ったり、味見したり、試したりせずに購入するため、商品が顧客の希望と違った場合は返品できるということが一般的となっています。これは顧客にとっては利点であり、ネット通販をよく利用する顧客が購入を決定する際の基準になりつつあります。しかし、倉庫にとっては頭の痛い問題です。受理、検査、評価、選別、再梱包、元の場所への保管、返金処理等、多くの時間と場所を浪費することになります。

(次号に続く)



TICON グループ新年会 「We Are FAMILY」

TICONグループは、新年会「WE ARE FAMILY」を開催しました。これは、昨年一年間頑張ったTICON社員への新年のプレゼントであると同時に、今年の新たな成長に向けた決起集会でもあります。



新年会ではまた、新たにTICONファミリーの一員となった新メンバー2名を歓迎しました。この2名はFRASERS CENTREPOINT LIMITED (FCL) から取締役および経営陣に参画し、PRESIDENTに就任したソーボン・ラーチャクサー氏とEXECUTIVE GENERAL MANAGER, DEVELOPMENTに就任したオーストラリア人のティム・エドワーズ氏です。両氏は、今回新たにCEOに就任したウィラバン・ブーンゲート氏の下でTICONグループの工場および倉庫の開発を担当していきます。新年会ではさらに、取締役および経営陣が社員と新年の挨拶を交わすとともに、TICONグループが近い将来、工業用不動産開発分野でASEANTOPになるという目標を共有しました。



「WE ARE FAMILY」では大いに食べ、大いにしゃべり、楽しいひと時を過ごしました。最後はラッキードローで素敵な新年のプレゼントを受け取り、参加者全員がハッピーな気分で会場を後にしました。■

Happy Party... Happy Family.

私たちは一つの家族なのです。



今回のPROPERTY HIGHLIGHTでは、好立地にあるプロジェクトをご紹介します。

TICONロジャナ工業団地プラチンプリ

今年最後のProperty Highlightでは、アジア工業団地（スワンナプーム）内のTICONの高品質レンタル工場をご紹介します。同工業団地は自動車産業やエレクトロニクス産業の製造基地に近いサムットプラカン県の戦略的な場所に位置しています。この団地はバンコクにもっとも近い団地のひとつで、周辺にはスワンナプーム国際空港、ラカバン内陸コンテナデポ（ICD）、多数の東部地域の工業団地が位置しています。当社のプロジェクトは様々なニーズに対応できるように多様なサイズの工場を用意していますので、いろいろな産業に適しています。



利用可能な物件

所在地: ロジャナ工業団地(プラチンプリ)

工場面積: 2,000 - 4,000㎡
床耐荷重: 3t/㎡
天井高さ: 7m



詳細問合せ、工場見学のご連絡は下記まで。

Tel: +66 (0) 805 805 005

Email: marketing@ticon.co.th または info@ticon.co.th (日本語)

利用可能な物件はここ
でチェック!



詳細問合せ、工場見学のご連絡は下記まで。

Tel: +66 (0) 805 805 005

Email: marketing@ticon.co.th または info@ticon.co.th (日本語)

利用可能な物件はここ
でチェック!



TPARKワンノイ2

配送に適した立地、品質、基準を重視すると同時に、周辺の環境や社会にも配慮する事業者にとって、TPARKワンノイ2のグリーン倉庫は期待を裏切らないでしょう。同プロジェクトはパホンヨティン通り（国道1号線）沿いにあり、アウターリング道路まで200mと近いため、バンコクやバンコク近郊、北部、東北部への配送にも便利で、周辺には主要消費財配送センターが数カ所あります。また、プロジェクト内にはデューティフリーゾーン・サービスがあるほか、BOIの恩典も付与されています。TPARKワンノイ2は米国グリーンビル協会から環境性能評価システムであるLEED (Leadership in Energy and Environmental Design) 銀賞レベルの認証を取得しているため、従来の倉庫と比べて30%以上の節電が可能であると同時に、倉庫利用者にとっても快適な環境となっています。

利用可能な物件

所在地: TPARKワンノイ2

工場面積: 1,500 - 5,940㎡
床耐荷重: 3t/㎡
天井高さ: 10m

Take a Break



Tom Sab Kai

ンスタンドに隣接しています。駐車場も広く、店内はガラスで囲まれたエアコンのある大きな部屋がいくつもあり、大小どちらのグループにも対応可能です。ランチタイムに行けばお客でいっぱいでしょう。

この店で是非食べてほしい料理はまずガイヤーン。皮はバリバリで、中の肉は柔らかく、「コンケン元祖フライング・ガイヤーン」の別名に似つかわしいおいしさです。また、カニとプラーラーで和えたソムタムやプラーヌンもとても美味です。その他、ラープブラートト、ネームソット、串刺しネームトート、コームーヤーン、トムセープガイ、トムセープゲーン、オーム、テンカイトム、パットミー、コンケンもあります。そして、最後はデザート「カノム・ジャムパ」で締めです。これはパンとかき氷にシロップとコンデンスミルクをかけたもので、アイスティーフ味、コーヒーフ味もあります。おいしければ、他の人にも教えてあげてください。コンケンに来てワニダー・ロットウィセートに立ち寄りなれば損ですよ! ■



Tum Pu Plara Wanida

今回のTake a Breakは、テンGMに紹介していただいたコンケンのイサーン・レストラン「ワニダー・ロットウィセート」です。この店はガイヤーン、ムートート、プラーパオがおいしく、期待を裏切りません。アクセスも便利で、プラトゥー・ムアンを出てミトラパート通りを左折してセントラルから2キロのところであり、チャルーンシー交差点の近く、PTTガソリ



Tom Sab Kai



Kor Moo Yang

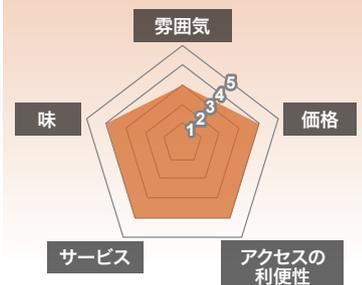


Larb Pla Tod

ワニダー・ロットウィセート

営業時間:
7時30分~17時30分

立地: TPARKコンケン近く
住所: コンケン県コンケン市シラー町ミトラパープ通り177番地
電話: 043-225-004
043-220-371

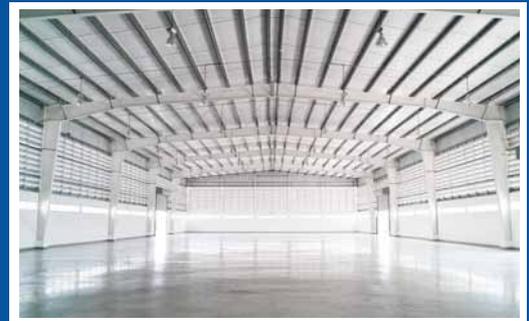


LEADING PROVIDER OF **QUALITY FACTORIES** IN INDUSTRIAL ESTATES IN THAILAND



18
 PROJECTS ACROSS
 THE COUNTRY

**READY BUILT
 FACTORIES FOR RENT**



Contact us:
 Tel: +66 (0) 2679 6565
 Email: marketing@ticon.co.th
info@ticon.co.th (japanese)
www.ticon.co.th

TICON Industrial Connection Public Company Limited
 13th Floor, Sathorn City Tower, 175 South Sathorn Road,
 Bangkok, 10120 Thailand